

アプローチをした結果得られるこの仕事のやりがいを感じました。

医系技官を一つの選択肢として考えた時自分の今後の進路を今までと違った角度から見つめ直し、また、そのためには何が必要でどのような学生生活を送るべきかを再考するきっかけとしてくれたこの講演会に対する感謝の意を結びの言葉として終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

医学科3年次 衣 斐 菜 々

この度の講演会では医系技官として現在ご活躍されているお二人の先輩方からお話を伺いました。

知念先生からは、医系技官というお仕事についてご説明いただきました。以前所属の文部科学省で、学校給食のアレルギー対応の制度づくりを担当されていた時のお話しなど具体的な事例を挙げて説明いただき、医系技官として実際どのような業務にどのような立場で関わっているのかということより詳しく理解することができました。それに加えて、「国民全員の生活をより良くすることに関われる」という点にやりがいを感じながらお仕事されているということを知れたことは大きなことでした。

亀山先生は、これまでの経歴や勤められていた病院での症例など、救急医としての経験に加えて、卒後ずっと臨床の場にいらっしゃった先生が厚労省に入り、衝撃を受けたことなどもお話しくささいました。入省後の初めての体験の1つである国会答弁書の作成については、答弁書実物もお見せいただき説明を伺うことができました。また、現在救急医療に関する業務に携わっているとのことと、このような先生方の取り組みにより現場の状況を反映させた仕組みができるようになるのだと

いうことを知りました。

お二人の先生方は、現在医系技官であるという点においては共通ですが、知念先生は技官としてずっと勤務されている一方で、亀山先生は一定の期間、臨床の現場から派遣されているとのことでした。このように異なるバックグラウンドを持つお二人のお話しから、これからの進路の多様なことに改めて気付くこととなりました。

臨床医とは別の形での医療への関わり方として、医系技官という働き方の選択肢を自らの将来の道として考えることができるようになる機会を与えてくださったことに感謝しています。しかしながら、採用に際し初期研修を終える必要があるということは、やはり先ずはしっかりと医師としての経験を積むことが求められていることであると思います。そのことを考えると、これからの講義に、そして実習に、新たな意識をもって臨むことができそうです。将来に繋がる貴重なお話を伺えたこと、嬉しく思います。



講演会が終わって…